

変革をいかに適切に効率よくマネジメントするか……。チェンジマネジメントとは、業務や組織に関わる様々な変革を推進・加速し、成功に導くためのマネジメント手法のことです。

最大の抵抗勢力は変化を恐れる人の心。組織には急激な変化を好まず、慣れ親しんだ環境や仕事のやり方に固執する社員も少なくないため、変革を進めようとする、必ず抵抗や軋轢が生じます。

チェンジマネジメントでは、社員が変化にうまく適応できるよう、経営トップが率先して変革の狙いや必要性を組織に浸透させながら、社員の意識改革を進めなければなりません。

今回のフォーラムは数多くの企業の改革や事業再生、M&Aをコンサルティングされてきた松岡真宏氏に、改革期・変革期に人事の果たす役割は何かをお話頂きます。

参加を希望される方は、裏面の申込書にて会員申請の上、お申込み下さい(入会金・年会費・参加費無料)。



## プログラムのご紹介

### チェンジマネジメントにおける人事戦略

フロンティア・マネジメント株式会社 代表取締役 | 松岡 真宏 氏

日時：2016年9月13日(火) 14:00~16:00

場所：パソナグループ本部ビル1F研修室 (〒100-8228 東京都千代田区大手町2-6-4)

#### メッセージ

我が国の年間M&A件数は、1980年代の年間200~300件から、90年代半ば以降は年間2,000件へと跳ね上がりました。21世紀に入ってからは投資ファンドによる企業買収も盛んになりました。M&Aや投資ファンドによる企業買収の際、不可避免的に発生するのは「チェンジマネジメント」です。

多くの日本企業の人事戦略は、平時のノウハウが社内蓄積されている一方、危機時や変化時のノウハウは十分とは言えません。また、CHOや人事のシニア人材・中核人材でも、自らの社会人人生において、科学的に人事戦略を組み立てられるほど数多くのチェンジマネジメントを経験する方は多くはありません。

結果として、日本企業におけるチェンジマネジメントに関する人事戦略の確立は、依然として大きな課題となっています。加えて少子高齢化が着実に進行する我が国では、日本企業のクロスボーダーM&Aが加速し、チェンジマネジメントの様態が更に複雑化して行くことが予想されます。

私が共同代表を務めるフロンティア・マネジメント株式会社は、2015年度には300件のコンサルティング案件を遂行し、約40件のM&Aを実現させました。その過程で経験した様々な人事や組織上の論点を紹介しながら、チェンジマネジメントのプロセスにおいて、一体どのようなことが生じ、どのような対応が必要となるのかを、お話をさせていただきます。

#### プロフィール

東京大学経済学部卒業。野村総合研究所、パークレイズ証券会社を経て、UBS証券会社に入社し、1999年に株式調査部長(兼)マネージングディレクターに就任。10年以上にわたり、流通業界を中心に証券アナリストとして活動。1999年に国内外の複数のアナリストランキングで、小売部門トップランキングを獲得。

2003年に産業再生機構に入社し、マネージングディレクターに就任。地方百貨店である津松菱・うすい百貨店の事業再生に関与し、カネボウ・ダイエーの案件では取締役として事業再生に関与。

2007年にフロンティア・マネジメント(株)設立。アルビコホールディングス取締役(2008年)、オリンパス株式の大量取得行為に関する対応策(買収防衛策)の特別委員会委員(2011年)等を務める。

事業再生実務家協会会員。日本証券業協会・日本市場や日本企業の再認識と情報発信を考える懇談会委員。早稲田大学ファイナンス研究センター「投資銀行ビジネス講座：再生型事業投資業務」講師(2008年7月~)。早稲田大学大学院商学研究科MBAコース非常勤講師(2010年4月~)。BS11の報道番組「InsideOUT」キャスター(2011年10月~2014年3月)。

著書は『小売業の最適戦略』(日本経済新聞社)『百貨店が復活する日』(日経BP社)『問屋と商社が復活する日』(日経BP社)『逆説の日本企業論』(ダイヤモンド社)『私的整理計画策定の実務』(共著 商事法務)『流通業の「常識」を疑え!』(共著 日本経済新聞出版社)『ジャッジメントイノベーション』(共著 ダイヤモンド社)『時間資本主義の到来』(草思社)『時間消費で勝つ!』(共著 日本経済新聞出版社)。

